

～～第7682回～～

長九郎山

～H27.5.24～

伊豆南の天気予報は「雨、ところにより雷雨」。静岡も一晩中雨で、朝の集合時も曇天である。支部長が天候と登山道のぬかるみを勘案し、起点を池尻から宝蔵院（海拔564m）に変更。長九郎山（995.7m）への登り標高差がほぼ半減し一同安心する。戸田の海岸線にバスが出ると、駿河湾を隔てた雲のなかに思いがけず富士が現われ、巖に数条の雪を残す五月富士である。もしかしたら雨に降られないのではと希望が湧く。起点の富貴野山・宝蔵院周辺は瞑想の森ともいう。石段を上がると本堂まで二百体近くの石仏群が並ぶ。雨上がりの苔の鮮やかさに息を飲む。遊歩道入口は樹齢四百年の神木が聳える。弘法杉という。小さな石の祠に山行の無事を祈る。枝打ちされた杉の林間はフタリシズカの白い花穂が足元をかざる。出合を過ぎやや急な登山道となり、コガクウツギの白い花に導かれて30分ほど上ると原生林に入る。ヒメシャラの赤銅色の幹が青葉若葉のアクセントになる。鶯の谷渡りが長く尾を曳く。上るほどに時鳥の声が響く。休憩時、水分補給の適正量を教わる。体重×5×山行時間＝脱水量(ml)とのこと。各自計算し持参量と照らし合わせる。お目当てのシャクナゲは2時間歩いても見当たらない。花期は過ぎたようだ一同諦めた矢先のこと。前列から歓声が上がった。薄桃色の芳潤な花が、登山道に枝を幾つも伸ばしている。キョウマルシャクナゲである。透きとおる大きな花びらに、紅の苔が寄り添って優美だ。かたわらにサラサドウダンも咲いている。学術参考林に指定された一帯である。頂上に着く。3等三角点の上に鉄骨のやぐらが組まれている。「こまっちゃう、こまっちゃう」先に上ったひとが囁くような声を出す。絶景に向かうと謙虚な静岡人は困ってしまうらしい。全方位の空中散歩。雲を背に富士が浮かぶ。万二郎、万三郎が若葉の山脈に顔を出す。体の向きを変えれば、伊豆七島が雲の合間に藍の影を覗かせる。Mさんが一つ一つ指差し、八丈島以外すべてを教えてくれる。松崎港の一端が見える。石廊崎は眼下のもくもくした若葉山に隠れて見えない。新緑の上を夏燕が飛び交う。下山は雨に濡れた落葉で滑りやすく、やや苦勞する。数カ所峠道が狭く崩れかけ、木の根を掴んで慎重に歩を運ぶ。橋のない沢に出る。先輩に足の置き場を教わりコワゴワ渡る。持草川添いの道は青葉風が心地よい。卯の花が匂う。小滝や山葵田がつぎつぎに展開する。苔の宝庫・伊豆を実感するコースである。一夜の雨に潤った苔の青さは幻想的で、苔の花は繊細を極めた。立寄り温泉「ほたる」も良い。広々した浴槽につかり、下山時に滑った尻餅の痛みをすっかり忘れた。

参加者：24名（静岡南13、静岡北4、静岡東3、静岡葵1、富士宮1、清水1、島田1）

天候：曇り

地図：仁科・湯ヶ野

コースタイム：静岡駅645＝宝蔵院1000…出合1115…八瀬峠1145…長九郎山1232-1315…御座木橋1525…池代橋1535…立寄湯「ほたる」1710-40＝静岡駅1930

静岡南支部 恩田侑布子